

2025 年度 教育課程

專 門 基 礎 分 野

専 門 基 礎 分 野

位 置 づ け

本分野は，専門分野を学習するために必要な基礎知識を習得するための領域として位置づける。

目 的

人間を身体的・精神的・社会的側面から理解し，保健医療福祉との関係において医療や看護のあり方を展望する能力を養う。

科目名	解剖生理学Ⅰ (生体を構成する細胞・組織, 脳神経系器官の形態と機能)						
科目区分	専門 基礎	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (20 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	久 智行 (実務経験のある授業科目: 医師) 横井 麻里 (実務経験のある講師)						
ねらい	人体の正常な形態・構造と機能を系統的・統合的に理解する。						
回 数	内 容						授業形態
<細胞組織> 1・2回	1 生命とは 2 人体を構成する細胞の構造と機能 1) 細胞の構造 2) 細胞を構成する物質とエネルギーの生成 3) 細胞の増殖と染色体 4) 組織 5) 生体維持の機能						講義
3・4回	3 体液とホメオスタシス 1) 体液組成 2) 生体リズムと恒常性 (ホメオスタシス)						
<脳神経系> 1・2回	1 ニューロンとグリア 1) 興奮の伝導、跳躍と伝導 2) シナプスと神経伝達物質 3) 神経伝達物質と脳 2 中枢神経と末梢神経、自律神経						講義 講義
3・4回	3 神経系の発生、脊髄、脳の構造と機能 4 大脳の機能局在: 大脳の機能分担 1) 大脳の機能局在と神経伝導路 2) 運動神経と感覚神経 3) 中枢と末梢の伝導路						
5・6回 (45 分)	5 脳室、髄膜、脊髄神経、脳神経 6 脳波と睡眠、記憶 7 本能、情動行動、植物状態と脳死						
(45 分)							試験
評価方法	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能① 解剖生理学 (医学書院) 生体のしくみ 標準テキスト (医学映像教育センター)						
参考資料	・ 授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・ 必ず予習・復習をして授業に臨むこと。 ・ 映像以外: 血液のしくみ・神経系のしくみ2を事前に視聴のうえ, 授業に臨むこと。(なお, 映像以外は, 何度視聴してもかまわない。) ・ 看護の学習の基礎になる科目であり, 関連科目: 疾病治療論の基礎ともなる科目なので, 確実に理解できるよう望む。						

科目名	解剖生理学Ⅱ（呼吸器系，循環器系器官の形態と機能）						
科目区分	専門 基礎	必修 区分	必修	単位数 （時間数）	1 （30 時間）	対象 年次	1 年
担当者名	片岡 飛鳥（実務経験のある授業科目：看護師）						
ねらい	人体の正常な形態・構造と機能を系統的・統合的に理解する。						
回 数	内 容						授業形態
<呼吸器> 1 回	1 呼吸器の構造と機能 1) 口腔・鼻腔から肺胞までの構造 2) 呼吸のプロセス 換気・外呼吸と内呼吸・ガスの運搬						講義
2 回	気道の構造と機能						
3 回	肺の構造と機能						
4 回	呼吸中枢と呼吸運動の調整						
5 回	呼吸機能と呼吸器障害						
6・7 回	看護につなげる呼吸器の構造と機能を整理しよう。 ・ 呼気・吸気時の内外肋間筋の動き、横隔膜の動き ・ 呼吸時の胸腔内圧の変化 ・ 酸素の取り込みと利活用 ・ 呼吸機能が障害された場合の人体の反応						演習
<循環器> 1 回	1 循環器系の構成 1) 体循環と肺循環 2 心臓の構造 1) 心臓の構造（位置・心房と心室・弁・心臓壁） 2) 心臓の栄養血管と機能血管（冠状動脈系と神経支配）						講義
2・3 回 （45 分）	3 心臓の機能 1) 刺激伝導系 2) 心電図と刺激伝導系						
	3) 心周期 4) 心臓の圧 ― 容積の関係						
4 回	5) 心臓の機能を左右する因子：前負荷・後負荷・収縮力						
5 回	4 末梢循環器系の構造 1) 主要動脈と静脈						
6 回	2) 血圧と血液循環 3) 血圧と血流						演習
7・8 回	看護につなげる心臓の構造と機能、動静脈を整理しよう。 ・ 心臓の室・弁・心臓の栄養血管・機能血管 ・ 心電図 ・ 動静脈の走行						
（45 分）							試験
評価方法	筆記試験で評価する。						
必須資料 （テキスト等）	系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能① 解剖生理学（医学書院） 生体のしくみ 標準テキスト（医学映像教育センター）						
参考資料	・ 授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・ 必ず予習・復習をして授業に臨むこと。 ・ 映像以外：「呼吸のしくみ」「循環のしくみ1」を事前に視聴のうえ，授業に臨むこと。（なお、映像以外は何度視聴してもかまわない。） ・ 看護の学習の基礎になる科目であり，関連科目：疾病治療論の基礎ともなる科目なので，確実に理解できるよう望む。						

科目名	解剖生理学Ⅲ（血液・造血器，代謝・内分泌器官，免疫システムの形態と機能）						
科目区分	専門 基礎	必修 区分	必修	単位数 （時間数）	1 （20 時間）	対象 年次	1 年
担当者名	久 智行（実務経験のある医師） 横井 麻里（実務経験のある講師）						
ねらい	人体の正常な形態・構造と機能を系統的・統合的に理解する。						
回 数	内 容						授業形態
< 血 液 造 血 器 > 1 ～ 2 回	1 血液・造血器系の構造と機能 1) 血液の成分と機能 血球の分化・血液組成 2) 造血のしくみ 3) 血液型 2 赤血球の役割 3 白血球の役割 4 血小板の役割 5 止血機構（止血のメカニズム）						講義
< 免疫 > 1 ・ 2 回	1 免疫システムの構造と機能 1) 自己と非自己 2) 特異的生体防御反応と非特異的生体防御反応 3) 免疫寛容性						講義
2 ・ 4 回	4) 自然免疫と獲得免疫 5) 抗原抗体反応とサイトカイン						講義
< 代 謝 内 分 泌 > 1 回	1 代謝・内分泌器官の構造と機能 1) ホルモンの種類 2) ホルモン分泌調節と標的臓器						講義
2 回 ～ 4 回 (45 分)	2 内分泌器官の構造とホルモンの機能 1) 視床下部と下垂体の関係 2) 下垂体後葉ホルモンの作用 (1) オキシトシンの分泌機序と作用・調節 (2) バゾプレッシンの分泌機序と作用・調節 3) 下垂体前葉ホルモンの作用 (1) 成長ホルモンの分泌機序と作用・調節 (2) プロラクチンの分泌機序と作用・調節 4) 視床下部ホルモンの分泌と作用・調節 5) 甲状腺ホルモンの分泌と作用 6) 副腎ホルモンの作用 (1) 副腎髄質ホルモン (2) 副腎皮質ホルモン						
(45 分)							試験
評価方法	筆記試験で評価する。						
必須資料 （テキスト等）	系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能① 解剖生理学 （医学書院） 生体のしくみ 標準テキスト（医学映像教育センター）						
参考資料	・ 授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・ 必ず予習・復習をして授業に臨むこと。 ・ 看護の学習の基礎になる科目であり，関連科目：疾病治療論の基礎ともなる科目 なので，確実に理解できるよう望む。						

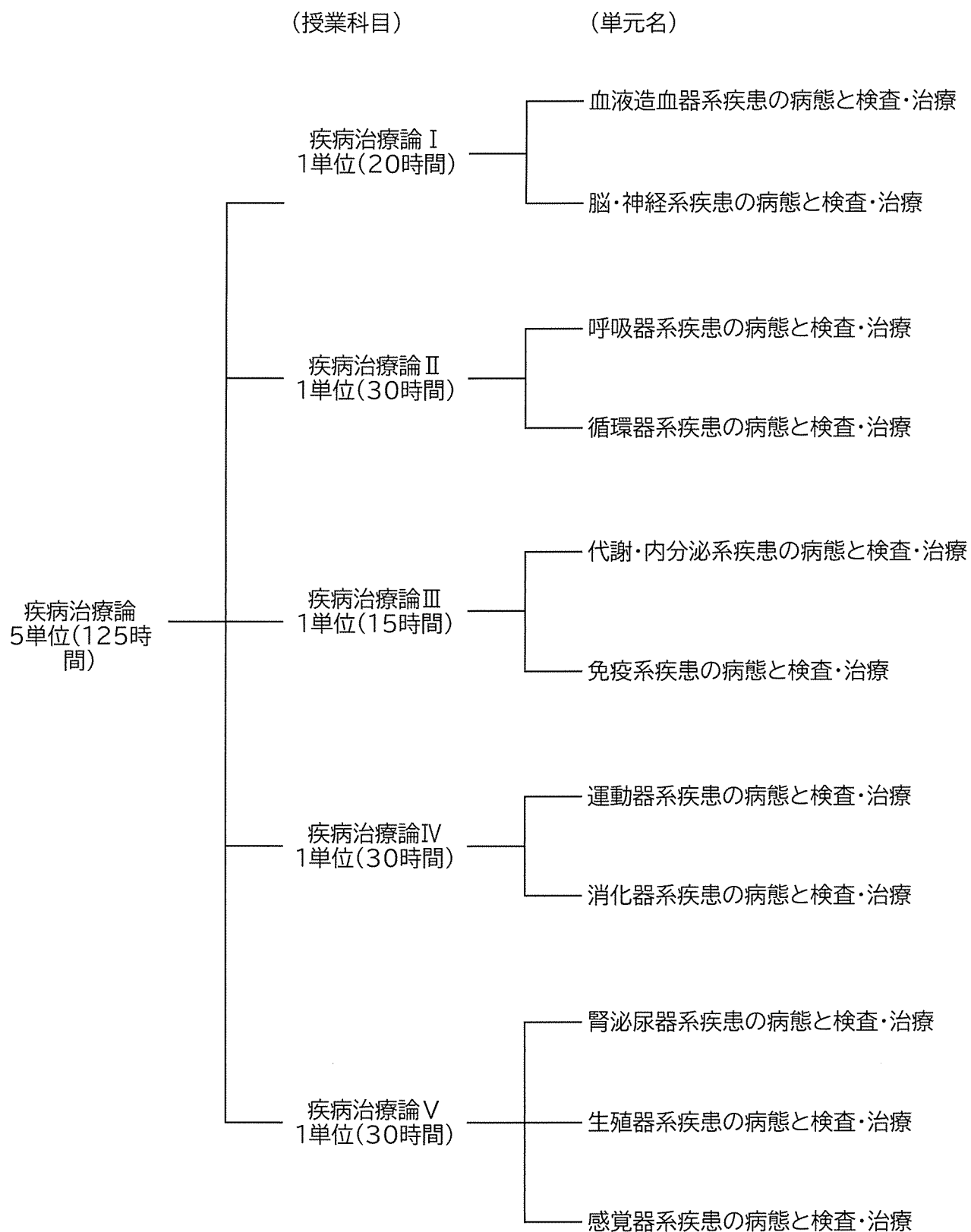
科目名	解剖生理学Ⅳ（運動器系，消化器系器官の形態と機能）						
科目区分	専門 基礎	必修 区分	必修	単位数 （時間数）	1 （30 時間）	対象 年次	1 年
担当者名	片岡 飛鳥（実務経験のある授業科目：看護師）						
ねらい	人体の正常な形態・構造と機能を系統的・統合的に理解する。						
回 数	内 容					授業形態	
<運動器> 1・2回	Ⅰ.運動器系の構造と機能 1 全身の骨と骨格 1) 人体の骨格が分かる(体幹と体肢) 2) 骨の形態と構造と機能が分かる 2 関節について分かる 3 骨格筋の基本的な構造が分かる					講義	
3回	4 運動のメカニズムが分かる 1) 骨格筋の収縮と弛緩がわかる (1) 骨格筋の収縮機構						
4回	5 体幹の骨格と筋 (1) 脊柱の構造 (2) 脊柱の区分 (3) 骨盤の構造 (4) 背部の筋 (5) 胸部の筋 6 上肢の筋 (1) 肩甲骨周辺の筋 (2) 上肢の骨格と筋						
5回	7 下肢の骨格と筋 (1) 下肢の構造と運動						
6回	8 頭頸部の骨格と筋						
<消化器> 1回	Ⅱ.消化器と栄養吸収について 1 消化器系の構造と機能 (1) 口腔・咽頭・咀嚼と唾液について					講義	
2回	2 食道・胃と小腸による栄養素の消化吸収について						
3回	3 大腸の構造と機能						
4回	4 肝臓と胆のうと膵臓の構造と機能						
〈運動器と消化器のまとめ〉11・12・13.5回	看護につなげる骨・関節・筋肉の構造と機能動きを整理しよう ・上肢・下肢の動きと伸展・屈曲に伴う筋の収縮 ・日常生活動作と骨・筋系 看護につなげる消化器の構造と機能を整理しよう。 ・「食べる」「消化する」にかかわる消化器系の構造と機能					演習 グループワーク	
14・15回	グループ成果 発表					演習	
(45分)						試験	
評価方法	課題提出と筆記試験で評価する。						
必須資料（テキスト等）	系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能① 解剖生理学（医学書院）生体のしくみ 標準テキスト（医学映像教育センター）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・必ず予習・復習をして授業に臨むこと。 ・映像以外：「身体運動のしくみ2」「消化吸収のしくみ1」を事前に視聴のうえ，授業に臨むこと。（なお，映像以外は何度視聴してもかまわない。）						

科目名	解剖生理学Ⅴ（腎泌尿器系，生殖器系，感覚器系器官の形態と機能）						
科目区分	専門 基礎	必修 区分	必修	単位数 （時間数）	1 （20 時間）	対象 年次	1 年
担当者名	片岡 飛鳥（実務経験のある授業科目：看護師）						
ねらい	人体の正常な形態・構造と機能を系統的・統合的に理解する。						
回 数	内 容						授業形態
<腎・泌尿器> 1 回	1 腎臓の構造と機能 1) 腎臓の位置 2) 腎臓の構造 3) 尿の生成機能						講義
2 回	4) 腎臓の内分泌機能・体液の調節						
3 回	2 排尿路の構造と機能 1) 尿管・膀胱・尿道の構造 2) 排尿のメカニズム・排尿調節						
4 回	3 腎機能の評価 1) 腎機能検査 2) 尿検査						
<生殖器> 1 回	1 男性生殖器の構造と機能 1) 外性器・内性器 2) 造精機能と射精						講義
2・3 回 （45 分）	2 女性生殖器の構造と機能 1) 外性器・内性器 2) 卵巣周期と月経周期：ホルモン周期						
	3) 受精・着床・胎児の発生 4) 胎児の発育と胎児循環						
<感覚器> 1 回	1 感覚器の構造と機能 1) 目の構造と機能（視覚）						講義
2 回	2) 耳の構造と機能（聴覚・平衡覚） 3) 鼻の構造と機能（嗅覚） 4) 咽頭・喉頭の構造と機能						
3 回	2 皮膚の構造と機能 1) 皮膚の構造と機能 2) 体温とその調節						
（45 分）							試験
評価方法	筆記試験で評価する。						
必須資料（テキスト等）	系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能① 解剖生理学（医学書院）生体のしくみ 標準テキスト（医学映像教育センター）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・必ず予習・復習をして授業に臨むこと。 ・映像以外：「排泄のしくみ」を事前に視聴のうえ，授業に臨むこと。（なお，映像以外は何度視聴してもかまわない。） ・看護の学習の基礎になる科目であり，関連科目：疾病治療論の基礎ともなる科目なので，確実に理解できるよう望む。						

科目名	病理学						
科目区分	専門基礎	必修区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	太田 浩史（実務経験のある教育者）						
ねらい	看護の対象となる健康レベルや病気の経過, 予後を理解するため, 病気のなりたちや疾病の分類を理解する。						
回 数	内 容						授業形態
1 回	1 看護と病理学 1) 病理学とは 2) 医療と社会における病理学の役割 3) 看護において病理学を学ぶ意義 2 病気の原因 1) 内因 2) 外因 3) 公害病・医原病・職業がん						講義
2 回	3 細胞・組織の損傷とその原因 1) 細胞の適応現象 (1)萎縮 (2)肥大と過形成 (3)化生 2) 細胞の死 (1)壊死（ネクローシス） 3) 細胞と組織の変性 (1)細胞の変性						
3 回	4 細胞・組織の損傷に対する反応としての炎症 1) 炎症に関与する細胞と細胞メディエーター 2) 局所の炎症 3) 組織の修復と創傷治癒 4) 炎症の分類						
4 回	5 循環障害 1) 循環器系の概要 2) 浮腫 3) 充血とうっ血 4) 出血と止血 5) 血栓症 6) 塞栓症 7) 虚血と梗塞 8) 側副循環による障害 9) ショックと臓器不全						
5 回	6 代謝障害 1) 脂質代謝障害 2) タンパク質代謝障害 3) 糖質代謝障害 4) その他の代謝障害						
6 回	7 先天異常と遺伝子異常 1) 遺伝子異常 2) 染色体異常						講義
7 回	8 腫瘍 1) 腫瘍の定義と分類 2) 腫瘍の発生の病理 3) 悪性腫瘍の広がりと影響・診断 (1) 腫瘍の発生因子 (2) 腫瘍マーカー						
(45 分)							試験
評価方法	筆記試験で評価する。						
必須資料	系統看護学講座 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進① 病理学（医学書院）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・予習・復習をして授業に臨むこと。 ・疾病治療論の基礎になる科目なので、積極的な授業姿勢を望む。						

科目名	治療論						
科目区分	専門 基礎	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	白石 裕比湖（実務経験のある授業科目：医師）						
ねらい	医師が疾病の診断を正確にくだすための検査法と，疾病による生体の変化を正常に戻すための基本的な治療法の概要，治療における生体反応を理解する。						
回 数	内 容					授業形態	
1 回	1 疾病の診断 1) 病態と診察の基礎 (1)診断過程 ①健康な状態からの変化を確認する診断過程 (2)検査の種類と概要 ①検査の基本と進め方 ②各検査の意義と方法 2 疾病の治療 1) 治療法の種類と概要 （生体の反応を含む） (1)薬物療法 (2)食事療法 (3)運動療法 (4)リハビリテーション療法 (5)放射線療法 (6)内視鏡的治療 (7)手術療法（手術適応と外科的療法・麻酔） (8)臓器移植 (9)輸液療法・輸血					講義	
2～7回							
(45 分)						試験	
評価方法 及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 別巻 6 臨床検査 (医学書院) 別巻 7 臨床放射線医学 (医学書院) 別巻 1 離床外科総看護総論 (医学書院) 新体系看護学 別巻 13 治療概説 (メヂカルフレンド社)						
参考資料	・ 授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・ 毎回プレテスト・ポストテストを実施する。 ・ 病理学の知識を前提とするので，復習をして授業に臨むこと。 ・ 疾病治療論や看護の基礎となる科目なので，授業には積極的な姿勢を望む。						

疾病治療論 科目構造



科目名	疾病治療論Ⅰ（血液造血器，脳神経系疾患の病態生理・検査・治療）						
科目区分	専門基礎	必修区分	必修	単位数（時間数）	1（20 時間）	対象年次	1 年
担当者名	後藤 晴雄（実務経験のある授業科目：医師） 柴田 靖 （ // ） 太田 浩史（実務経験のある授業科目：教育者）						
ねらい	対象を看護するうえで必要な疾患の病態生理，症状と徴候や，それらが生体に及ぼす影響を理解するとともに，病態を正確に知るための検査と，病態を正常に戻すための治療法を理解する。						
回 数	内 容					授業形態	
<血液造血器> 1～3回	1 血液・造血器系疾患の病態生理・検査・治療 1) 赤血球系の異常（貧血） 2) 白血球系の異常（白血球減少症） 3) 造血器腫瘍 (1) 白血病：急性・慢性 (2) 悪性リンパ腫 (3) 多発性骨髄腫					講義	
<脳神経系> 1～3回	1 脳神経系疾患（外科系）の病態生理と診断・治療 1) くも膜下出血 2) 脳腫瘍 3) 頭部外傷 4) 水頭症 5) 脳膿瘍（感染症）						
4～7回 （45 分）	2 脳神経系疾患（内科系）の病態生理と診断・治療 1) 脳出血 2) 脳梗塞 3) 筋ジストロフィー 4) 脱髄・変性疾患 （多発性硬化症・パーキンソン病・筋萎縮性側索硬化症：ALS） 5) 脳炎 6) 認知症（アルツハイマー・脳血管性・レビー小体型） 7) てんかん 8) ギランバレー症候群						
（45 分）						試験	
評価方法	筆記試験で評価する。						
必須資料 （テキスト等）	系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進② 病態生理学（医学書院） 生体のしくみ 標準テキスト（医学映像教育センター） 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学④ 血液・造血器（医学書院） 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑦ 脳・神経（医学書院）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・必ず予習・復習をして授業に臨むこと。・関連科目：解剖生理学が基礎となる科目であり，看護の学習の基礎になる科目なので，確実に理解できるよう望む。・映像以外：「血液のしくみ」「神経系のしくみ2」を事前に視聴のうえ，授業に臨むこと。（※復習視聴）（なお，映像以外は何度視聴してかまわない。）・複数の講師が担当するので，出席時間等は自己管理のうえ，体調を整え欠席しないように授業に臨むこと。						

科目名	疾病治療論Ⅱ（呼吸器系・循環器系疾患の病態生理と治療）						
科目区分	専門基礎	必修区分	必修	単位数 （時間数）	1 （30 時間）	対象 年次	1 年
担当者名	久 智行 （実務経験のある授業科目：医師） 大木 岳 （ 〃 ）						
ねらい	対象を看護するうえで必要な疾患の病態生理，症状と徴候や，それらが生体に及ぼす影響を理解するとともに，病態を正確に知るための検査と，病態を正常に戻すための治療法を理解する。						
回 数	内 容					授業形態	
<呼吸器> 1～5回	1 呼吸器系疾患（内科系）の病痛生理・検査・治療 1) 肺炎 2) 結核 3) 気管支拡張症 4) 慢性閉塞性肺疾患（COPD） 5) 間質性肺炎 6) 胸膜炎					講義	
6・7回 （45 分）	2 呼吸器系疾患（外科系）の病態生理・検査・治療 1) 肺がん 2) 中皮腫 3) 気胸						
<循環器> 1～4回	1 循環器系疾患（内科系）の病痛生理・検査・治療 1) 虚血性心疾患 2) 急性冠症候群 3) 心不全：急性・慢性 4) 不整脈 5) 血圧異常：高血圧						
5～8回 （45 分）	2 循環器系疾患（外科系）の病態生理・検査・治療 1) 心臓弁膜症 2) 心膜炎（心タンポナーデ） 3) 大動脈解離・大動脈瘤 4) 閉塞性動脈硬化症 5) 静脈瘤・静脈血栓					試験	
評価方法	筆記試験で評価する。						
必須資料（テキスト等）	系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進② 病態生理学（医学書院） 生体のしくみ 標準テキスト（医学映像教育センター） 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学② 呼吸器（医学書院） 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学③ 循環器（医学書院）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・必ず予習・復習をして授業に臨むこと。・関連科目：解剖生理学が基礎となる科目であり，看護の学習の基礎になる科目なので，確実に理解できるよう望む。・映像以外：「呼吸のしくみ」「循環のしくみ1」を事前に視聴のうえ，授業に臨むこと。（※復習視聴）（なお，映像以外は何度視聴してもかまわない。）・複数の講師が担当するので，出席時間等は自己管理のうえ，体調を整え欠席しないように授業に臨むこと。						

科目名	疾病治療論Ⅲ （代謝・内分泌系，免疫・アレルギー-疾患の病態生理・検査・治療）						
科目区分	専門 基礎	必修 区分	必修	単位数 （時間数）	1 （20 時間）	対象 年次	1 年
担当者名	村田 智史（実務経験のある授業科目：医師） 浅川 智香子（実務経験のある授業科目：医師）						
ねらい	対象を看護するうえで必要な疾患の病態生理，症状と徴候や，それらが生体に及ぼす影響を理解するとともに，病態を正確に知るための検査と，病態を正常に戻すための治療法を理解する。						
回 数	内 容						授業形態
<代謝内分 泌> 1～5回	1 内分泌・代謝系疾患の病態生理・検査・治療 1) 視床下部下垂体前葉系疾患（成長ホルモン） 2) 視床下部下垂体後葉系疾患（尿崩症） 3) 甲状腺疾患（橋本病・バセドウ病） 4) 副甲状腺疾患 5) 副腎疾患（アルドステロン症・クッシング症候群・褐色細胞腫） 6) 糖尿病 7) 脂質異常症（高脂血症） 8) 尿酸代謝異常（痛風）						講義
6～10 回 （45 分）	2 アレルギー疾患の病態生理・検査・治療 1) 気管支喘息 2) 花粉・食物アレルギー（花粉症） 3) アナフィラキシー 4) その他：ラテックスアレルギー・薬物アレルギー 3 自己免疫疾患・膠原病の病態生理・検査・治療 1) 関節リウマチ 2) 全身性エリテマトーデス 3) 強皮症 4) 多発性筋炎・皮膚筋炎 5) シェーングレン症候群 6) パーチエット病						講義
（45 分）							試験
評価方法 及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 （テキスト等）	系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進② 病態生理学(医学書院) 生体のしくみ 標準テキスト（医学映像教育センター） 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑥ 内分泌・代謝（医学書院） 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑪ アレルギー-膠原病・感染症（医学書院）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留 意事項	・必ず予習・復習をして授業に臨むこと。・関連科目：解剖生理学が基礎となる科目であり，看護の学習の基礎になる科目なので，確実に理解できるよう望む。・映像レク外：「ホルモンのしくみ」を事前に視聴のうえ，授業に臨むこと。（※復習視聴）（なお，映像レク外は何度視聴してもかまわない。）・複数の講師が担当するので，出席時間等は自己管理のうえ，体調を整え欠席しないように授業に臨むこと。						

科目名	疾病治療論Ⅳ（運動器系・消化器系疾患の病態生理・検査・治療）						
科目区分	専門基礎	必修区分	必修	単位数（時間数）	1（30 時間）	対象年次	1 年
担当者名	大木 武（実務経験のある授業科目：医師） 保坂 栄勇（〃） 藤田 善幸（〃）						
ねらい	対象を看護するうえで必要な疾患の病態生理，症状と徴候や，それらが生体に及ぼす影響を理解するとともに，病態を正確に知るための検査と，病態を正常に戻すための治療法を理解する。						
回 数	内 容						授業形態
<運動器> 1～7回	1 運動器疾患の病態生理・検査と治療 1) 骨折・脱臼・捻挫 2) 脊髄損傷 3) 骨・関節の炎症性疾患（骨髄炎） 4) 関節の変性疾患（変形性股関節症・変形性膝関節症） 5) 骨腫瘍：骨肉腫 6) 椎間板ヘルニア 7) 変形性脊椎症						講義
<消化器> 1～2回 (45 分)	2 歯・口腔疾患の病態生理・検査・治療 1) 歯周病 2) 齲蝕						
3～4回	3 消化器疾患(外科系)の病態生理・検査・治療 1) 食道がん 2) 胃がん：早期胃がん・進行胃がん 3) 大腸がん：5 結腸・直腸がん 4) 虫垂炎						
5回	4 消化器疾患（内科系）の病態生理・検査・治療 1) 胃・十二指腸潰瘍 2) 腸炎：潰瘍性大腸炎・クローン病 3) イレウス						
6～8回 (45 分)	5 肝臓・胆のう・膵臓系疾患の病態生理と治療 1) 肝炎（急性・慢性） 2) 肝硬変 3) 肝がん 4) 胆石・胆のう炎・胆管炎 5) 膵炎（急性・慢性） 6) 膵臓がん						
評価方法	筆記試験で評価する。						試験
必須資料（テキスト等）	系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進② 病態生理学（医学書院） 生体のしくみ 標準テキスト（医学映像教育センター） 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑩ 運動器（医学書院） 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器（医学書院） 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑮ 歯・口腔（医学書院）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・必ず予習・復習をして授業に臨むこと。 ・映像以外：「身体運動のしくみ2」「消化吸収のしくみ1」を事前に視聴のうえ，授業に臨むこと。（※復習視聴）（なお，映像以外は何度視聴してもかまわない。） ・複数の講師が担当するので，出席時間等は自己管理のうえ，体調を整え欠席しないように授業に臨むこと。						

科目名	疾病治療論Ⅴ (腎・泌尿器・男性生殖器系，感覚器系疾患の病態生理と治療)						
科目区分	専門 基礎	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	2 年
担当者名	外部講師 (実務経験のある授業科目：医師) 外部講師 (//) 外部講師 (//)						
ねらい	対象を看護するうえで必要な疾患の病態生理，症状と徴候や，それらが生体に及ぼす影響を理解するとともに，病態を正確に知るための検査と，病態を正常に戻すための治療法を理解する。						
回 数	内 容						授業形態
<腎泌尿器> 1～3回	1 腎疾患の病態生理・検査・治療 1) 腎不全：急性・慢性 2) 慢性腎臓病(CKD) 3) 糸球体腎炎 4) ネフローゼ症候群 5) 全身性疾患による腎障害 (1) 糖尿病性腎症 (2) ループス腎炎 (3) アミロイド腎症 6) 腎臓がん						講義
4・5回 (45 分)	2 泌尿器系疾患の病態生理・検査・治療 1) 尿路性器の感染症(膀胱炎・尿道炎・前立腺炎) 2) 前立腺肥大症 3) 前立腺がん 4) 尿路結石症 5) 膀胱がん 6) 精巣腫瘍						
<婦人科> 1～4回	1 婦人科疾患の病態生理・検査・治療 1) 子宮筋腫 2) 子宮がん：頸部がん・体部がん 3) 卵巣がん 4) 性感染症(STD) 5) 月経異常・月経前緊張症・月経困難症 6) 乳がん						
<感覚器> 【眼】 1・2回	1 眼疾患の病態生理・検査・治療 1) 白内障 2) 緑内障 3) 網膜・硝子体疾患：網膜剥離・網膜症						
<耳鼻・咽 喉> 3・4回	2 耳鼻咽喉疾患の病態生理・検査・治療 1) 突発性難聴 2) メニエール病 3) 喉頭がん 4) 副鼻腔炎						

< 皮膚 > 5・6回	3 表在性皮膚疾患の病態生理・検査・治療 1) 湿疹 2) アトピー性皮膚炎 3) 蕁麻疹 4) 熱傷 5) 感染症皮膚疾患：带状疱疹・疥癬	
(45 分)		試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。	
必須資料(テキスト等)	系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進② 病態生理学 (医学書院) 生体のしくみ 標準テキスト (医学映像教育センター) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑧ 腎・泌尿器 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑨ 女性生殖器 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑬ 眼 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑭ 耳鼻咽喉 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑫ 皮膚 (医学書院)	
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。	
履修上の留意事項	・必ず予習・復習をして授業に臨むこと。 ・関連科目：解剖生理学が基礎となる科目であり、看護の学習の基礎になる科目なので、確実に理解できるよう望む。 ・映像以外：「排泄のしくみ」を事前に視聴のうえ、授業に臨むこと。(※復習視聴) (なお、映像以外は何度視聴してもかまわない。) ・複数の講師が担当するので、出席時間等は自己管理のうえ、体調を整え欠席しないように授業に臨むこと。	

疾病治療論 学習内容マトリクス

科目名	単元	主な疾患	主要症状	検査・治療・処置	時間
疾病治療論Ⅰ 1単位 20時間 (うち試験1時間)	・血液・造血器系疾患の 病態生理・検査・治療	鉄欠乏性貧血 再生不良性貧血 白血病(急性・慢性) 悪性リンパ腫・多発性骨髄腫	出血傾向 貧血 発熱 リンパ節腫脹・脾腫 易感染 体重減少	化学療法 安静療法 骨髄穿刺 輸血療法 放射線療法 骨髄生検 骨髄移植	6時間
	・脳および脳神経系疾患の 病態生理・検査・治療	脳梗塞 脳出血 水頭症 くも膜下出血 脳腫瘍 頭部外傷 てんかん ギランバレー症候群 パーキンソン病 筋萎縮性側索硬化症	運動麻痺 失語 意識障害 嚥下障害 排尿障害 呼吸障害 頭蓋内圧亢進症状 高次脳機能障害	手術療法 薬物療法 脳室ドレナージ 脳血管造影 髄液検査 脳波検査 言語療法 放射線療法(ガンマナイフ) リハビリテーション	13時間
疾病治療論Ⅱ 1単位 30時間 (うち試験1時間)	・呼吸器系疾患の病態生理 検査・治療	肺炎 肺がん 結核 気管支喘息 気胸 慢性閉塞性肺疾患 呼吸不全 過換気症候群	呼吸困難 胸痛 胸水 咳嗽 喀痰 咯血 チノーゼ ばち指 喘鳴 いびき	化学療法 手術療法 酸素療法 胸腔ドレナージ 人工呼吸 気管切開 気管支鏡検査 呼吸機能検査 肺組織検査 肺理学療法 結核の院内感染予防策	13時間
	・循環器系疾患の病態生理 検査・治療	狭心症 心筋梗塞 心不全 高血圧 心臓弁膜症 大動脈瘤 大動脈解離 閉塞性動脈硬化症 心タンポナーデ 心筋症 深部静脈血栓症 心筋炎	胸痛 動悸 不整脈 浮腫 うっ血 チノーゼ ショック 呼吸困難 失神	心臓血管造影 心電図 心エコー検査 手術療法 PCI PCPS IABP 心臓カテーテル 心臓カテーテル検査 冠動脈造影 冠動脈バypass術 弁置換術 心臓リハビリテーション	16時間
疾病治療論Ⅲ 1単位 15時間 (うち試験1時間)	・代謝・内分泌系疾患の 病態生理・検査・治療	甲状腺機能亢進症 尿崩症 甲状腺機能低下症 クッシング症候群 アルドステロン症 糖尿病 高脂血症 痛風 副腎切除 自律神経失調症	甲状腺腫 頻脈 振戦 眼球突出 口渇 低血糖 高血糖 多飲多尿 意識障害 無気力 易疲労感 拇指小結節発赤・腫脹	食事療法 運動療法 インスリン療法 尿中濃度測定 自己血糖測定 尿中負荷試験 尿中補充療法 糖負荷試験 脂質・尿酸代謝検査	10時間
	・アレルギー・免疫系疾患の 病態生理・検査・治療	膠原病 全身性エリテマトーデス シェーグレン症候群 多発筋炎 関節リウマチ クッシング症候群 全身性硬化症 ヘルペット病	発熱 関節炎 関節痛 皮膚症状 全身症状 アナフィラキシショック レイノ現象 血管炎 筋炎 皮膚粘膜症状	画像検査 血液検査 穿刺検査 薬物療法 安静療法 減感作療法 免疫吸着療法 血漿交換	9時間

疾病治療論 学習内容マトリクス

科目名	単元	主な疾患	主要症状	検査・治療・処置	時間
疾病治療論Ⅳ 1単位 30時間 (うち試験1時間)	・運動器系疾患の病態生理 検査・治療	大腿骨骨折(頸部・骨幹部) 椎間板ヘルニア 変形性脊椎症 脊髄損傷 骨腫瘍 骨肉腫 変形性関節症(股・膝) 骨粗鬆症 頸椎後韌帯骨化症	疼痛 腫脹 神経麻痺 知覚障害 出血 変形(フォルクマ拘縮) コル・トマン症候群 運動麻痺 知覚障害	手術療法 安静療法 牽引療法 ギプス装着 ミニグワラリ 関節液検査 脊髄(椎間板)造影 骨密度測定 リハビリテーション	14時間
	・歯科口腔疾患の病態生理 ・消化器系疾患の病態生理 検査・治療	歯肉炎 歯周病 齲蝕 食道がん 胃がん 胃・十二指腸潰瘍 潰瘍性大腸炎 クロノ病 大腸がん 直腸がん	吐血 下血 腹痛 嘔吐 下痢 便秘 嚥下障害 食欲不振 体重減少 通過障害	食事療法 中心静脈栄養法 手術療法 放射線療法 化学療法 内視鏡検査 造影検査(胃透視・注腸) 塞栓術 胃瘻・腸瘻	3時間 6時間
疾病治療論Ⅴ 1単位 30時間 (うち試験1時間)	・肝・胆道系、膵臓疾患の 病態生理・検査・治療	肝臓がん 肝硬変 脂肪肝 肝炎(急性・慢性・劇症) アルコール性肝障害 胆石症 胆のうがん 膵臓がん 膵炎	吐血 腹痛 腹部膨満 肝不全 腹水貯留 肥満 むくみ 黄疸 全身倦怠感	放射線療法 内視鏡的逆行性胆管膵管造影 肝生検 肝動脈塞栓術 動脈注入化学療法 PTCD 経皮的インターバル注入 経皮的マシコ凝固法 ドレーン管理 食事療法 薬物療法 インターバル療法 肝庇護	6時間
	・腎臓疾患の病態生理・検査・治療	腎不全(急性・慢性) 腎炎 ゴットセ症候群 腎臓がん	血尿 浮腫 尿毒症 脱水	透析療法(血液・腹膜) 安静療法 食事療法 薬物療法 腎移植 腎生検 腎機能検査 静脈性尿路造影	6時間
疾病治療論Ⅴ 1単位 30時間 (うち試験1時間)	・泌尿器系並びに男性生殖 器疾患の病態生理・検査・ 治療	尿路結石 前立腺がん 前立腺肥大症 膀胱炎 膀胱がん 精巣腫瘍 男性不妊	排尿障害 夜間頻尿 尿失禁 尿閉 勃起障害	手術療法 薬物療法 尿検査 尿流動能検査 膀胱留置カテーテル管理 尿管ストマ造設 膀胱鏡 碎石術 前立腺生検 放射線療法 内分泌療法	3時間
	・婦人科系疾患の病態生理 検査・治療	卵巣がん 卵巣嚢腫 子宮がん(頸部・体部) 子宮筋腫 乳がん 産炎 性感染症	疼痛 性器出血 帯下 月経異常 排尿障害 外陰部掻痒 性器出血 リンパ浮腫	手術療法 内視鏡検査 化学療法 放射線療法 薬物補充療法 頸管粘液検査 不妊治療 性感染症治療 乳房超音波検査 マニグワラリ 婦人科的処置	8時間
疾病治療論Ⅴ 1単位 30時間 (うち試験1時間)	・感覚器系疾患の病態生理 検査・治療	白内障 緑内障 網膜症 網膜剥離 咽頭がん 熱傷 突発性難聴 メニエル病 尋麻疹 帯状疱疹・水痘 接触性皮炎	視力障害 聴力障害(難聴) めまい 嚥下障害 皮膚粘膜症状	手術療法 薬物療法 視力検査 眼底検査 聴力検査(オーディオメーター) 耳鏡 平衡感覚検査 触覚・嗅覚検査 生検(皮膚、粘膜、筋)	12時間

科目名	臨床微生物						
科目区分	専門 基礎	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	久保川 利哉（実務経験のある授業科目：臨床検査技師） 荒木 雅之（実務経験のある授業科目：看護師）						
ねらい	微生物学の基礎知識を体系的に理解するとともに、看護師に必須の感染予防の知識と標準感染予防策（スタンダードプリコーション）の技術を取得する。						
回 数	内 容						授業形態
1・2回	1 微生物の基礎 1) 微生物とは 2) 細菌とは 3) 真菌とは 4) 原虫とは 5) ウイルスとは						講義
3回	2 感染と防御 1) 感染と感染症 (1) 感染の成立から発症・治癒まで (2) 感染経路						
4回	2) 感染に対する生体防御機構 (1) 自然免疫 (2) 獲得免疫 (3) 粘膜免疫 3) 感染源・感染経路からみた感染症						
5回	3 感染症の検査と診断 1) 病原体を検出する方法 2) 生体の反応から診断する方法						
6・7回	4 感染症の現状と対策 1) 感染症の現状と問題点 2) 感染症への対策 (1) ワクチン (2) 予防接種 3) 感染予防の理念と実際 (1) 標準予防策（スタンダードプリコーション） (2) 感染経路別予防策 (3) 感染症廃棄物の取り扱い 4) 滅菌と消毒 (1) 無菌操作						
8・9回	標準予防策（スタンダードプリコーション） 手指衛生・個人防護具の着脱・医療器材取扱（滅菌物）						演習

10～15 回 (45 分)	5 おもな病原微生物 1) 病原細菌 グラム陽性球菌、グラム陰性球菌、グラム陽性杆菌・グラム陰性杆菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア 2) 病原真菌 深在性真菌症をおこす真菌 深部皮膚真菌症をおこす真菌 表在性真菌症をおこす真菌 3) 病原原虫 マラリア原虫、赤痢アメーバ、トリコモナス、トキソプラズマ 4) 病原ウイルス (1) DNA ウィルス ①ヘルペスウィルス科 水痘-帯状疱疹ウィルス、EB ウィルス、サイトメガロウィルス、ヒトヘルペスウィルス 6・7 ②アデノウィルス科 ③ヒロパピローウィルス科	講義
	(2) RNA ウィルス科 ①パラミクソウィルス ムンプス、麻疹ウィルス、パラインフルエンザウィルス、RS ウィルス ②ヒコルナウィルス ポリオウィルス、コクサッキーウィルス、エコーウィルス、エンテロウィルス ③トガウィルス 風疹ウィルス ④コロナウィルス SARS コロナウィルス ⑤レトロウィルス ヒトTリンパ球向性ウィルス 1、ヒト免疫不全ウィルス(HIV) (3) 肝炎ウィルス (4) プリオン病	
(45 分)		試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。	
必須資料 (テキスト等)	ビジュアル微生物学（ヌーベルヒロカワ）	
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。	
履修上の留意事項	・予習・復習をして臨むこと。 ・病態生理学の基礎になる科目なので、積極的な授業参加姿勢を望む。 ・演習には積極的な参加姿勢と望む。	

科目名	栄養と代謝（生化学含）						
科目区分	専門 基礎	必修 区分	必修	単位数 （時間数）	1 （20 時間）	対象 年次	1 年
担当者名	野澤 朋子（実務経験のある授業科目：管理栄養士）						
ねらい	人間が健康を保持増進し，健康を回復するために必要な栄養の基礎知識を理解するとともに，栄養素の摂取と体内における代謝を軸として，その機能やもたらされるエネルギー代謝を生化学の視点から理解する。						
回 数	内 容						授業形態
1 回	I 生体を構成する物質とその代謝 1 生化学の基礎						講義
2 回	2 代謝の基礎と酵素・補酵素						
3 回	3 糖質の構造と機能・糖質代謝						
4 回	4 脂質の構造と機能・脂質代謝						
5 回	5 タンパク質の構造と機能・タンパク質代謝						
6 回	6 タンパク質とアミノ酸の代謝						
7 回	7 ポルフィリン代謝と異物代謝						
8～10 回 （45 分）	II 遺伝情報とその発現 1 遺伝子と核酸・核酸代謝 2 遺伝子の複製・修復・組み換え 3 転写・翻訳と翻訳後修飾						試験
（45 分）							
評価方法 及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 （テキスト等）	系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能② 生化学（医学書院） 系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能③ 栄養学（医学書院）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・予習・復習をして臨むこと。 ・関連科目である看護栄養学の基礎となる科目なので，積極的な学習姿勢を望む。						

科目名	看護栄養学						
科目区分	専門 基礎	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15 時間)	対象 年次	2 年
担当者名	野澤 朋子（実務経験のある授業科目：管理栄養士）						
ねらい	現代の食生活から、人々の健康時・疾病時の栄養管理を理解する。また、人間のライフステージに沿った栄養管理のポイントを理解するとともに、人々の健康増進や高度な医療に対応するため、現代人の食生活の課題を踏まえ、豊かな健康・福祉生活を送るために必要な栄養学の基礎知識を理解する。						
回 数	内 容						授業形態
1 回	1 人間栄養学と看護 2 食事と食品						講義
2 回	3 栄養ケア・マネジメント 4 栄養状態の評価・判定						
3・4 回	5 ライフステージと栄養						
5・6 回	6 臨床栄養						
7 回	7 健康づくりと食生活						
(45 分)							試験
評価方法 及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能③ 栄養学（医学書院）						
参考資料	・ 授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・ 予習して臨むこと。 ・ 関連科目である栄養と代謝を基礎とした授業となるので、復習をして臨むこと。 ・ 自己の健康管理にも活かせる科目なので積極的な学習姿勢を望む。						

科目名	看護と薬理						
科目区分	専門 基礎	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	菅原 光竜（実務経験のある授業科目：看護師）						
ねらい	回復の促進に向けての注射や与薬といった，診療の補助に必要な薬物の作用・有害反応を理解するとともに，有害反応の発現を観察・適切に対処するための基礎的知識を理解する。						
回 数							授業形態
1 回	1 薬理学の基礎知識 1) 薬物治療とは 2) 薬が作用するしくみ：薬力学（作用・副作用・作用点）						講義
2 回	3) 薬の体内挙動：薬物動態学 (1) 薬物の投与経路 (2) 薬物の吸収・分布・代謝・排泄 (3) 半減期と血中濃度 4) 薬効の個人差に影響する因子（高齢者・小児・妊婦）						
3・4 回 (45 分)	5) 薬の有益性と危険性（副作用と中毒） 6) 薬と法律：薬事法 ※薬物による医療過誤の判例						
5 回	2 与薬の技術 1) 与薬に関する基礎知識 (1) 薬物の基本的性質 剤形と投与経路 薬物動態 (2) 薬物療法時の看護師の役割						講義
6～8 回	2) 経口与薬 3) 外用薬の皮膚・粘膜投与 (1) 口腔内与薬 (2) 直腸内与薬 (3) 吸入 (4) 点鼻・点眼 (5) 経皮与薬：湿布・貼付剤・軟膏・ドレッシング材						
9～11 回	4) 注射 (1) 注射の基礎知識 (2) 皮下注射 (3) 皮内注射 (4) 筋肉内注射 (5) 静脈内注射・点滴静脈内注射						
12・13 回	筋肉内注射						演習
14 回	3 輸液療法を受ける患者の看護 1) 輸液療法の特徴 2) 輸液療法中の看護						講義
15 回 (45 分)	4 輸血管理 1) 輸血の種類と基礎知識 2) 輸血療法の援助の実際						
評価方法	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進② 薬理学（医学書院） 系統看護学講座 専門 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷のうえ，配布する。						
履修上の 留意事項	・事前にテキストを予習して授業に臨むこと。 ・DVD 学習や調べ学習等を指示するので，必ず指示されたことを厳守のうえで授業に臨むこと。 ・看護技術演習にはテキストや講義で使った資料を復習のうえ，緊張感をもって真剣に臨み，技術の習得に努める学習姿勢を望む。						

科目名	臨床薬理						
科目区分	専門 基礎	必修 区分	必修	単位数 (時数)	1 (30 時間)	対象 年次	2 年
担当者名	外部講師（実務経験のある授業科目：薬剤師）						
ねらい	主要な疾患の内服治療薬の作用機序や体内動態を知り、薬物の人体への影響について理解する。						
回 数							授業形態
1～3回	1 主要な疾患についての内服治療薬 1) 循環器疾患治療薬の種類と作用機序 (1) 高血圧症 降圧薬 (Ca 拮抗薬, RAS 阻害薬, 利尿薬, 交感神経遮断薬) (2) 急性冠症候群 血管拡張薬、 β 遮断薬, スタチン (3) 心不全 強心薬, 交感神経遮断薬, RAS 阻害薬, 利尿薬, 血管拡張薬 (4) 不整脈 抗不整脈薬 (β 遮断薬, Na ⁺ チャンネル遮断薬、 K ⁺ チャンネル遮断薬, Ca ⁺ チャンネル遮断薬) (5) 抗血小板・抗凝固療法						講義
4 回	2) 呼吸器疾患治療薬の種類と作用機序 (1) 気管支喘息 吸入ステロイド薬, β_2 遮断薬 (2) 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 気管支拡張薬, 副腎皮質ステロイド薬						
5 回	3) 消化器疾患治療薬の種類と作用機序 (1) 胃・十二指腸潰瘍 攻撃因子抑制薬 (PPI, H ₂ ブロッカー, 抗コリン薬など) 抑制因子増強薬 (粘膜保護、組織修復・粘膜産生分泌促進) (2) 胃食道逆流症 (3) 慢性肝炎 インターフェロン, 抗ウイルス薬, 副腎皮質ステロイド薬						
6 回	4) 代謝・内分泌, 膠原病疾患治療薬の種類と作用機序 (1) 糖尿病 (2) 脂質異常症 (3) 関節リウマチ						
7 回	5) 腎臓疾患治療薬の種類と作用機序 (1) 慢性腎臓病 (CKD) 高血圧症, 糖尿病, 貧血, 高 K 血症, CKD-MBD (2) 透析患者の薬剤管理						
8・9 回	6) 脳血管疾患治療薬の種類と作用機序 (1) パーキンソン病 レボドパ, ドパミン受容体刺激薬など (2) 認知症 (アルツハイマー病) アセチルコリンエステラーゼ 阻害薬など (3) てんかん 抗てんかん薬 (4) うつ病・うつ状態						

10～15 回 (45 分)	2 主な薬物の作用機序, 適応法と人体への影響 1) 抗感染症薬 2) 抗がん薬 3) 免疫治療薬 4) 抗アレルギー薬、抗炎症薬 5) 末梢神経系作用薬 6) 中枢神経系作用薬 7) 救急の際に使用される薬物 8) 漢方薬 9) 消毒液	講義
(45 分)		試験
評価方法 及び観点	筆記試験で評価する。	
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進② 薬理学 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 (医学書院) 看護学生のための薬理学ワークブック (医学書院)	
参考資料	特になし	
履修上の 留意事項	・ 1 年次に履修した「看護と薬理」が土台になるため, 復習をして臨むこと。	

科目名	社会福祉						
科目区分	専門基礎	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	川瀬 善美（実務経験のある講師）						
ねらい	社会保障制度・社会福祉制度のしくみを体系的に理解する。						
回 数	内 容						授業形態
1 回	1 社会保障制度と社会福祉 1) 社会福祉の概念・目的・機能・体系・内容 2) 社会福祉の法制度 （1）法制度の歴史的展開 （2）社会福祉と福祉 6 法 （3）社会福祉サービスの内容と提供のしくみ ①財政 ②組織と実施体制 ③従事者と担い手						講義
2 回	租税のしくみ						特別講義
3・4 回	2 社会保障と社会福祉の動向 3 医療保障 1) 医療保障制度の構造と体系 2) 健康保険と国民健康保険 3) 高齢者医療制度 4) 保険診療のしくみ 5) 公費負担医療 自立支援医療・難病・小児慢性特定疾患 等 6) 国民医療費						講義
5 回	4 所得保障 1) 所得保障制度のしくみ 2) 年金保険制度 3) 社会手当 4) 労災保険制度						
6 回	年金のしくみ						特別講義
7 回	5 公的扶助 1) 貧困・低所得問題と公的扶助制度 2) 生活保障制度のしくみ 3) 低所得者対策と近年の動向						講義
(45 分)							試験
評価方法 及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会福祉制度③ 社会保障・社会福祉（医学書院）						
参考資料	講義に必要な資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・ 予習・復習をして臨むこと。 ・ 年金セミナー、租税教室には必ず出席すること。						

科目名	地域包括時代の社会福祉						
科目区分	専門 基礎	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15 時間)	対象 年次	3 年
担当者名	外部講師（実務経験のある講師）						
ねらい	地域における社会福祉制度の適用方法や職種間連携の重要性・しくみを理解する。						
回 数	内 容						授業形態
1 回	1 高齢者福祉 1) 高齢者の状況と高齢者福祉の施策 2) 老人保健事業 2 介護保険制度 1) 介護保険制度の歴史 2) 介護保険制度の概要 3) 介護保険制度の申請方法と実際						講義 GW
2 回	3 障害者福祉 1) 障害者の定義と実態 2) 障害者福祉の理念 3) 障害者福祉制度の変遷と法体系の整備 4) 障害者福祉の関連施策						
3 回	4 児童家庭福祉 1) 家庭生活の現状 2) 児童にかかわる法と施策 3) 少子化対策と子育て支援 4) 児童虐待対策 5) 子どもの人権と貧困対策						
4 回	5 社会福祉援助 1) 援助とは 2) 「生活（ライフ）」の3側面 3) 社会福祉援助技術の分類：個別援助・集団援助 6 社会福祉援助の検討課題 1) 倫理上のジレンマ 2) エンパワメント 3) アドボカシー 4) セルフヘルプ・グループ						
5・6 回	7 医療提供システムと多職種連携の重要性・あらたな課題 8 社会福祉実践と医療・看護との連携の実際 1) 医療ソーシャルワーカー 2) 医療・看護・福祉の連携の実際 3) 連携の場面と方法						
7 回	9 社会福祉制度総括						講義
(45 分)							試験
評価方法	筆記試験で評価する。						
必須資料	系統看護学講座 健康支援と社会福祉制度③ 社会保障・社会福祉（医学書院）						
参考資料	講義に必要な資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・ 予習・復習をして臨むこと。						

科目名	保健医療論						
科目区分	専門 基礎	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15 時間)	対象 年次	3 年
担当者名	外部講師（実務経験のある授業科目：医師）						
ねらい	医療の変遷や概要と現代医療を取り巻く諸問題について理解する。						
回 数	内 容						授業形態
1・2回	1 医療と看護の原点 - 病と癒し - 1) 命について考える 4) 癒しの行為と癒しの知 2) 健康とは 5) チーム医療とマネジメント 3) 病の体験 2 医学・医療のあゆみと医療観の変遷 1) 現代医学の起源：古代医学から近代医学まで 2) 医療の発展と医療観の移り変わり						講義
3回	3 わたしたちの生活と健康 1) 救急医療 2) 診療所と病院 3) 薬と安全性 4) 生活と環境衛生，保健福祉行政 5) 一次予防と健康増進 6) 少子高齢化社会と世代間の絆 7) ノーマライゼーション 8) 心の健康と精神医療						
4回	4 現代医療の最前線 1) がん医療の最前線 4) 体外受精と出生前診断 2) 移植医療 5) 再生医療 3) 人工臓器 6) 画像診断装置の進歩						
5回	5 現代医療の新たな課題 1) 薬の副作用と手術偶発症 2) 先端医療技術がもたらす倫理上のジレンマ 3) インフォームドコンセントと医療情報開示						
6回	6 医療を見つめ直す新たな視点 1) 臨床疫学 3) 医療の管理と評価 2) 患者の安全 4) 情報化社会と医療						
7回	7 保健・医療・福祉の潮流 1) 新時代の保健・医療の担い手 2) プライマリケアの新たな展開 3) 医療におけるケアの視点 4) 地域医療包括システムの新しい展開 5) 保険・医療・福祉システムと地域住民の役割						
(45 分)							試験
評価方法	筆記試験で評価する。						
必須資料	系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度① 総合医療論 (医学書院)						
参考資料	講義に必要な資料は適宜印刷して配布する。						
留意事項	・予習・復習をして臨むこと。						

科目名	関係法規Ⅰ						
科目区分	専門 基礎	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	小島 朋子（実務経験のある看護師）						
ねらい	看護に関連する法令を理解し，保健医療福祉における看護師の役割・職責を認識する。						
回 数	内 容						授業形態
1・2回	1 法の概念						講義
	2 看護法 1) 保健師助産師看護師法 （目的・定義・免許・業務と責任）						
3回	3 医事法 1) 医療法 2) 医療関係資格法 （1)医師法 （2)歯科医師法 （3)薬剤師法 3) 医療を支える法 （1)医療・介護の提供体制に関する法律 （略：医療介護総合確保法）						
4～6回	4 保健衛生法 1) 地域保健法 2) 健康増進法 3) 精神保健及び精神障害者の福祉に関する法律 4) 母子保健法 5) 学校保健安全法 6) がん対策基本法 7) 自殺対策基本法 8) 難病の患者に対する医療等に関する法律 9) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 10) 予防接種法						
7回	5 薬務法 1) 医薬品，医療機器等の品質，有効性及び安全性の確保等に関する法律 2) 麻薬及び向精神薬取締法 3) 大麻取締法・覚せい剤取締法・あへん法 4) 毒物及び劇物取締法						
(45 分)							試験
評価方法 及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 健康支援と社会福祉制度④ 看護関係法令 （医学書院） 公衆衛生が見える （メディックメディア） 看護六法 （新日本法規） 国民衛生の動向 （厚生統計協会）						
参考資料	・講義に必要な資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・予習・復習をして臨むこと。						

科目名	関係法規Ⅱ						
科目区分	専門 基礎	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15 時間)	対象 年次	3 年
担当者名	本校職員（実務経験のある看護師）						
ねらい	保健医療福祉チームの一員として、多職種と連携する役割を担うため、関係職種に関する法令を理解するとともに、専門職業人として生涯働き続けていくための看護行政関連法規や労働に関する法を理解する。						
回 数	内 容						授業形態
1 回	1 看護法 1) 看護師等の人材確保の促進に関する法律						講義
2・3 回	2 医事法 1) 医療関係資格法 (1)診療放射線技師法 (4)言語聴覚士法 (2)臨床検査技師等に関する法律 (5)救命救急士法 (3)理学療法士及び作業療法士法 (6)臨床工学技士法 2) 保健福祉関係資格法 (1) 公認心理師法 (2) 精神保健福祉士法 (3) 栄養士法 (4)社会福祉士法及び介護福祉士法 3) 医療を支える法 (1)臓器の移植に関する法律（略；臓器移植法） (2)緊急時の看護・医療に関する法						
4 回	3 社会保険法・福祉関連法 1) 高齢者の医療の確保に関する法律 2) 介護保険法 3) 国民年金法 4) 厚生年金保険法						
5 回	4 福祉法 1) 児童福祉法 2) 児童虐待の防止等に関する法律 3) 母子及び父子並びに寡婦福祉法 4) 老人福祉法 5) 高齢者虐待の防止、高齢者の擁護者に対する支援等に関する法律 6) 障害者基本法 7) 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律 8) 身体障害者福祉法 9) 発達障害者支援法						

6・7回	5 労働法と社会基盤整備 1) 労働基準法 2) 労働安全衛生法 3) 労働者災害補償保険法 4) 雇用保険法 5) 育児休業, 介護休業法等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律 6) 雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律 7) 男女共同参画社会基本法 8) 配偶者から暴力の防止及び被害者の保護などに関する法律 ※WLB 推進を含む。	講義
(45 分)		試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。	
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会福祉制度④ 看護関係法令 (医学書院) 公衆衛生が見える (メディックメディア) 看護六法 (新日本法規) 国民衛生の動向 (厚生統計協会)	
参考資料	講義に必要な資料は適宜印刷して配布する。	
履修上の留意事項	・予習・復習をして臨むこと。	

科目名	公衆衛生学Ⅰ						
科目区分	専門基礎	必修区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	綾部 明江 (実務経験のある授業科目：保健師) 中島 富志子 (実務経験のある授業科目：保健師)						
ねらい	公衆衛生の考え方, 特徴を理解するとともに, 看護に携わる者として日本人の健康を数値から確認し, 健康に生活するための基礎的知識を理解する。						
回 数	内 容						授業形態
1 回	1 公衆衛生と健康の概念 1) 公衆衛生の歩み 2) プライマリーヘルスケア (PHC) 3) ヘルスプロモーション						講義
2 回	2 集団の健康を捉えるための手法 -疫学・保健統計- 1) 疫学とは 2) 有病率・罹患率・受療率 3) 平均余命・平均寿命・健康寿命 4) 死因・死亡率 5) 健康指標の基礎資料 人口統計・疾病障害に関する統計 6) 日本人集団の健康を捉えるための統計資料						
3～7 回	3 世代別統計 1) 母子保健 (1) 日本の母子保健統計の動向 (妊産婦死亡率・死産数・周産期死亡率・乳児死亡数 小児死亡率と死因・出生数及び合計特殊出生率) (2) 母体保護法に関する統計 (不妊手術と妊娠中絶・先天異常) 2) 成人保健 (1) 国民健康・栄養調査 (2) 生活習慣病の発症と重症化予防 (3) こころの健康 3) 高齢者保健 (1) 高齢化の現状 (世帯数・小家族・孤立・認知症・介護者の背景) 4) 精神保健 (1) 精神障害者の患者数と受療率 (2) 精神障害者の構成割合 (3) 精神科病院・病床数 (4) 精神保健の入院に関する統計 5) 障害者保健・難病保健 (1) 障害者保健・難病保健の地域支援システム						
(45 分)							試験
評価方法	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会福祉制度②公衆衛生 (医学書院) 公衆衛生がみえる第 6 版 (メディックメディア) 国民衛生の動向						
参考資料	講義に必要な資料は適宜印刷して配布する。						
留意事項	・ 予習・復習をして臨むこと。						

科目名	公衆衛生学Ⅱ						
科目区分	専門 基礎	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15 時間)	対象 年次	3 年
担当者名	外部講師（実務経験のある授業科目：保健師） 外部講師（実務経験のある授業科目：保健師） 外部講師（実務経験のある授業科目：保健師）						
ねらい	公衆衛生に関する基礎的知識を理解し，公衆衛生学の考え方を看護に活かす方法を理解する。						
回 数	内 容						授業形態
1 回	1 公衆衛生の活動対象 1) 自分の生活と健康に関する社会集団 2) 看護職の公的責任と活動対象 2 地域における公衆衛生の実践 1) 公衆衛生看護とは 2) 保健指導の原理・原則						講義
2 回	3 環境と健康 1) 地球温暖化 2) 水質・大気・土壌汚染 3) 放射性物質 4) 身の回りの環境と健康 (1) シックハウス症候群・化学物質過敏症 (2) 食品の安全確保						
3・4 回	4 感染症とその予防対策 1) 感染症の予防対策 2) 公衆衛生上の重要な感染症とその対策 (新型インフルエンザ，結核，AIDS (エイズ)・HIV 感染，新型コロナウイルス)						
5 回	5 学校と健康 1) 学校保健とその構造 2) 学校保健と看護職（養護教諭） 3) 現代の子どもの健康問題						
6 回	6 職場と健康 1) 産業保健 2) 職場における健康を守るしくみ (1) 労働基準法に基づく労働災害の補償と予防 (2) 労働安全法に基づく職場での健康管理 3) 産業保健における看護職の役割と課題						
7 回	7 歯科保健 1) 歯科保健の重要性 2) 各ライフステージにおける歯科・口腔保健 8 国際保健 9 健康危機管理						
(45 分)							試験
評価方法	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 健康支援と社会福祉制度② 公衆衛生（医学書院） 公衆衛生がみえる 第5版 （メディックメディア） 国民衛生の動向						
参考資料	講義に必要な資料は適宜印刷して配布する。						
留意事項	・予習・復習をして臨むこと。						